

自閉症スクリーニング質問紙(ASQ)日本語版の開発

大六一志 千住 淳 林 恵津子
(武蔵野大学) (東京大学) (加賀福祉園)

東條 吉邦 市川 宏伸
(国立特殊教育総合研究所) (東京都立梅ヶ丘病院)

自閉症はその中心的な問題として社会性(対人相互作用)の発達の遅れを示し、そのため早期に見出して適切な支援を行う必要がある。そこで筆者らはこれまで、自閉症児の社会性の問題に対する教育的支援方法や、その基礎となるアセスメント方法の研究を進めてきた(例えば東條ら, 2000)。

その中で最近特に重視すべき問題として、高機能自閉症やアスペルガー症候群をあげることができる。彼らは障害の軽微さゆえにしばしば見落とされ、十分な医学的および教育的支援や就労上の支援・保障を得られていない現状がある。こうした子どもたちもできるだけ早期にその障害に気づかれ、支援や保障が得られるようにするためには、家庭や保健所、教育現場などで簡便に実施でき、かつ、軽微な自閉性障害でも検出できる、スクリーニング・テストが必要である。そこで筆者らは、そのようなテストを開発することにした。

海外に目を向ければ、自閉症のスクリーニング・テストとしてはCHATとASQがある。このうちCHAT(Checklist for Autism in Toddlers)は、1歳半という早い時期に適用できる反面、アスペルガー症候群や非定型自閉症などの軽微な障害を検出ににくいという制約がある(Charman et al., 1998)。そこで今回筆者らは、ASQ(Autism Screening Questionnaire)に注目した。

ASQはRutterやLordらを中心とするチームにより開発された。DSM-IVやICD-10のための自閉症の面接基準であるADI-R(Autism Diagnostic Interview Revised)を基に質問項目が作成されており、したがって自閉症の3つの基本的障害である対人相互作用、コミュニケーション、常同的・反復的な行動様式についての質問項目からなっている。項目数は40問で、5~10分で実施できる。4~5歳用と6歳以上用の2種類があり、どちらも基本的に質問項目は同じであるが、4~5歳頃に顕著な行動特性について、4~5歳児用では現在形で、6歳以上用では過去形で質問しているところが異なっている。

Berumentら(1999)によれば、自閉症を含む広汎性発達障害と、広汎性発達障害を伴わない発達障害(行為障害、言語発達遅滞、知的障害など)とがカット・オフ点を境にきれいに分かれるだけでなく、広汎性発達障害の中でも自閉症とそれ以外の広汎性発達障害(非定型自閉症、アスペルガー症候群など)の平均がはっきり異なるなど、軽微な障害の検出という点でも優れている。筆者らはこの点に注目し、4年前からその日本語版の作成に着手した。

まず、第1次調査としてPDD児と典型発達児の比較を行い(千住・東條, 2001; 千住・林・東條, 2001)、その結果をふまえて修正版を作成した(大六・千住・林・東條・市川, 2003)。

本研究ではその第2次調査として、自閉症、自閉症以外の広汎性発達障害、広汎性発達障害以外の発達障害の間でのASQの識別力を検討した。

方 法

調査対象者

東京都立梅ヶ丘病院の受診者 101 名を対象とした。内訳は表 1 の通りであった。診断基準を統一するために、本研究では調査機関を東京都立梅ヶ丘病院に限定した。診断は ICD-10 に準拠し、担当医によって行われた。ただし、多動性障害については、上記の表では一般によく知られた名称 ADHD で記載されている。「その他」の中には、精神遅滞、強迫性障害、書字表出障害 (LD)、行為障害、分離不安障害が含まれた。

調査は担当医より受診者の保護者に依頼された。その場で回答しても、また持ち帰ってもよいこととした。質問内容に関して疑問が生じた場合のために、調査票の表紙には第 1 著者の連絡先が記載されていた。調査票は無記名であった。また、調査票には担当医によって、診断名、および発達水準の指標として IQ ないし DQ が記入された。IQ ないし DQ を測定した検査は WISC-III、全訂版田中ビネー、新版 K 式、KIDS などであった。実施時期は 2002 年 9 月から 2003 年 6 月までであった。

表 1 調査対象者の内訳

診断名	N	生活年齢			
		平均 (s.d)	最小値	最大値	
自閉症	42	9.5 (5.0)	3.5	23.5	
非定型自閉症	7	5.2 (2.1)	2.7	9.3	
アスペルガー症候群	5	7.8 (2.3)	5.7	11.8	
上記以外のPDD	15	8.9 (4.3)	4.1	19.6	
適応障害	6	12.9 (1.9)	10.0	14.2	
ADHD	21	10.0 (2.5)	5.3	14.7	
その他	5	10.3 (2.5)	6.8	13.3	
合計	101	9.4 (4.1)	2.7	23.5	

質問票の概要

日本語版 ASQ は Rutter らによる原版からかなり修正され、全 39 項目であり、また、構成も変更された。それぞれの項目に子どもの行動などがあてはまれば「はい」、あてはまらなければ「いいえ」を○で囲むこととした。2～3 語連鎖発話の出現していない子どもについては、項目 33～39 は回答しなくてよいこととした。具体的な質問項目は本稿の最後に添付されている。

項目 1～11、および、35～39 については「はい」の場合に 1 点、それ以外の項目については「いいえ」の場合に 1 点とした。39 点満点である。なお、「はい」と「いいえ」の中間に○をつけている、回答に迷ったと思われる項目については、その行動が顕著でなかったものとみなし、すべて「いいえ」として扱った。また、無記入の項目についてはすべて 0 点として扱った。

結果および考察

各質問項目の識別力

まず、各項目に対する得点率を、広汎性発達障害(PDD)群、および PDD 以外の群それぞれについて求めた。また、識別力について検討するために、両群の得点率の差について χ^2 検定を行った。PDD 群

には、自閉症、非定型自閉症、アスペルガー症候群などが含まれた。一方、PDD以外の群には、適応障害やADHDなどが含まれた。結果を表2に示した。

表2 各質問項目の識別力

項目番号	項目内容	得点を得た人の割合		χ^2
		PDD ^{a)}	PDD以外	
1	強迫的・儀式的行為	60.9	48.4	1.4
2	不適切な表情	47.8	38.7	0.7
3	クレーン現象	55.1	9.7	13.2 ***
4	独特な興味	62.9	35.5	6.5 *
5	反復的物品使用	64.7	35.5	7.4 **
6	周辺の興味	65.7	46.7	3.2 +
7	独特な感覚への興味	50.0	38.7	1.1
8	手指の常同行動	39.1	22.6	2.6
9	身体全体の常同行動	65.2	40.0	5.4 *
10	自傷行為	42.9	38.7	0.2
11	物への独特な愛着	17.4	3.2	3.8 +
12	友人関係	51.4	25.8	5.7 *
13	模倣	64.3	38.7	5.7 *
14	叙述的指さし	40.0	12.9	7.3 **
15	ジェスチャー	70.6	35.5	10.9 **
16	肯定のうなずき	40.0	3.2	14.2 ***
17	否定の首ふり	47.1	9.7	13.1 ***
18	視線	64.7	36.7	6.6 *
19	社会的微笑み	47.8	9.7	13.5 ***
20	注意の共有	40.0	13.3	6.9 **
21	物の共有	34.3	16.7	3.2 +
22	楽しみの共有	31.9	3.2	9.9 **
23	慰め	32.9	16.1	3.0 +
24	社会的働きかけ	55.7	29.0	6.1 *
25	表情の種類	59.4	19.4	13.8 ***
26	社会的模倣遊び	73.9	45.2	7.8 **
27	想像遊び	45.7	19.4	6.4 *
28	他者への興味	41.4	29.0	1.4
29	他者の働きかけへの反応	66.2	38.7	6.6 *
30	他者の声への注意	53.6	25.8	6.7 *
31	友人との想像遊び	72.5	25.8	19.1 ***
32	集団遊び	77.1	51.6	6.6 *
33	社会的おしゃべり	47.0	6.5	15.4 ***
34	会話	34.8	12.9	5.1 *
35	型にはまった発話	71.9	41.9	8.0 **
36	不適切な質問	44.6	41.9	0.1
37	代名詞の逆転	60.6	38.7	4.1 *
38	造語	37.9	32.3	0.3
39	儀式的言語使用	62.1	35.5	6.0 *

自閉症に特有と思われる行動に得点が与えられる。すなわち、項目1~11および35~39は「はい」と答えた人に得点が与えられ、項目12~34は「いいえ」と答えた人に得点が与えられる。

^{a)}PDD群には自閉症を含む。

検定の結果が有意にならず、識別力がないと考えられる項目が8項目あった。ASQ 原版の臨床的妥当性を検討した Berument ら(1999)と比較すると、1「強迫的・儀式的行為」、36「不適切な質問」、38「造語」の3項目については、Berument らでも有意な差の見られなかった項目である。また、10「自傷行為」、11「物への独特な愛着」の2項目については、Berument らでは有意水準10%ならば有意であった。つまり、これら5項目についてはもともと識別力がないことになり、自閉症に特有の行動では

ない可能性が考えられる。

一方、7「独特な感覚への興味」、8「手指の常同行動」、28「他者への興味」の3項目については、Berument らでは顕著な差が出ている。このうち項目7については、非PDD群で本研究(38.7%)の方がBerument ら(30.0%)よりも得点率がやや高かった。本研究の非PDD群はADHDが3分の2を占めるのに対し、Berument らではADHDは含まれないことから、項目7ではADHDの持つPDDの特徴のために両群間の差が小さくなった可能性が考えられる。これに対し、項目8と28については、Berument ら(1999)や千住・林・東條(2001)と比べ本研究は得点率が著しく低く、特にPDD群においてこの傾向が顕著である。今回の調査票では質問の主旨が理解されにくかった可能性が考えられる。

全体的にPDD群における得点率は、Berument ら(1999)や千住・林・東條(2001)と比べ低い傾向が見られる。これは、Berument らの調査対象者はいろいろな研究に参加しており、また、千住らの対象者は自閉症教育に熱心な学校(学校法人武蔵野東学園)に所属しているのに対し、本研究の調査対象者には初診の人なども含まれるため、自閉症の症状に対する理解度が相対的に低く、したがって質問の主旨も理解されにくかった可能性が考えられる。

尺度の信頼性

Cronbach の α 係数を求めたところ、39項目全体で.907、識別力のない8項目を削除した31項目では.903であり、いずれも高い信頼性を示した。

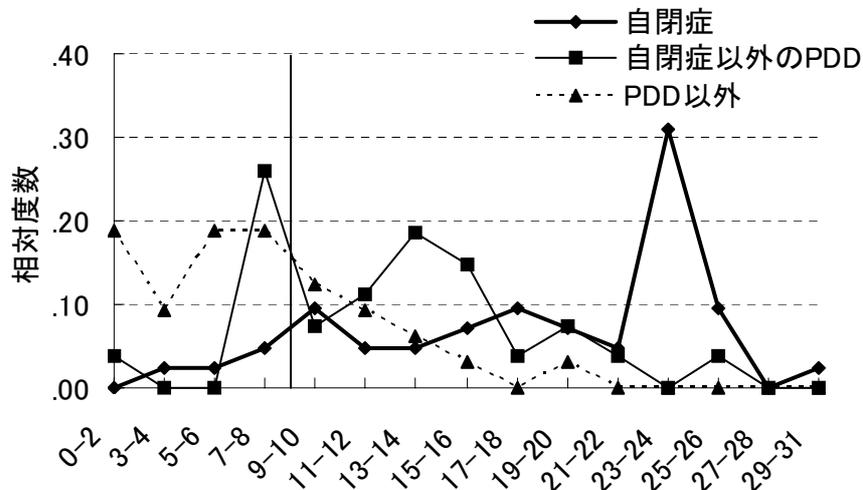


図1 ASQ得点分布(8項目削除)

得点分布

3群の分布の比較 39項目全体、および、識別力のない8項目を削除した31項目の両者について、対象者ごとに合計得点を求めた。そして、自閉症群、自閉症以外のPDD群、PDD以外の障害群それぞれについて、8項目削除後の得点分布を描いたものが図1である。また、各群の平均値を求めたものが表3である。

分散分析の結果、3群間の平均値の差は有意であった(全39項目： $F(2,98)=29.2$ 、 $p<.001$ ；8項目削除後： $F(2,98)=33.9$ 、 $p<.001$)。Scheffeの方法による多重比較検定では、3群間すべてに有意な差が見られた(全39項目、自閉症-自閉症以外のPDD： $MS_E=1.7$ 、 $p<.001$ ；自閉症以外のPDD-PDD

以外： $MS_E=1.8$ 、 $p<.05$) (8項目削除後、自閉症－自閉症以外のPDD： $MS_E=1.4$ 、 $p=.001$ ；自閉症以外のPDD－PDD以外： $MS_E=1.5$ 、 $p<.01$)。この結果はBerumentら(1999)とも一致するものであり、ASQに一定の識別力があることが示された。

ADHD群の分布 しばしば指摘されるようにADHDとPDDの境界は不明瞭であることから、ASQ上で両者の分布がどの程度識別できるのか検討した。PDD以外の障害群を、ADHD群とそれ以外の群に分け、表3に平均値を示した。Scheffeの方法による多重比較検定では、全39項目を用いると自閉症以外のPDD群とADHD群の差は有意ではなく($MS_E=2.0$ 、 $n.s.$)、8項目削除後に差の傾向が見られた($MS_E=1.7$ 、 $p=.057$)。自閉症群とADHD群の差は有意であった(全39項目： $MS_E=1.9$ ；8項目削除後： $MS_E=1.5$ 、いずれも $p<.001$)。ADHD群とADHD以外の障害群(PDDは含まない)との差は見られなかった(全39項目： $MS_E=2.6$ ；8項目削除後： $MS_E=2.1$ 、いずれも $n.s.$)。

以上より、自閉症群とADHD群の得点分布は明確に分かれるが、自閉症以外のPDD群とADHD群の分布の差は小さいことが示された。

表3 各群のASQ得点平均

群	N	全39項目		8項目削除後	
		平均 (s.d.)		平均 (s.d.)	
自閉症	42	23.2 (8.1)		18.3 (6.7)	
自閉症以外のPDD	27	16.1 (6.3)		12.6 (5.4)	
PDD以外計	32	10.8 (5.9)		7.3 (4.4)	
うちADHD	21	11.5 (5.3)		8.0 (3.6)	
うちADHD以外	11	9.4 (6.8)		6.0 (5.5)	

カットオフ点

カットオフ点の決定 ASQはスクリーニング・テストであるから、その点数以上を自閉症のリスクありと見なす、カットオフ点を決める必要がある。ここではまず、これまでの検討で識別力が高かった8項目削除後の得点についてカットオフ点を決めることにする。

Berumentら(1999)ではカットオフ以上のPDD児(自閉症を含む)が85%であったので、本研究でもそれとほぼ同様になるよう、カットオフ点を9点に決めた。これによりカットオフ以上のPDD児(自閉症を含む)は82.6%となった。感度(hit率)は.826、特異度(correct rejectionの率)は.636、陽性反応的中度は.826、陰性反応的中度は.636であった。Berumentらの結果と比べると、特異度および陽性反応的中度がやや低く、陰性反応的中度がやや高かった。つまり、PDD以外の子どもがカットオフ以上になる確率がやや高く、カットオフ以上の子どもが実際にPDDである確率がやや低く、これらの点はBerumentらに比べ識別力がやや低いことを示している。一方、陰性反応的中度が高いことは、カットオフ未満の子どもが実際にPDD以外と診断される確率が高いことを示しており、この点はBerumentらに比べ優れている点である。

図1では、カットオフ点に縦線が引いてある。自閉症群は大半がカットオフ以上に分布しており、また、PDD以外群は大半がカットオフ点未満に分布していることがわかる。自閉症以外のPDDでは分布に2つのピークが見られ、左のピークがカットオフのすぐ下の7～8点にあることがわかる。これは、自閉症以外のPDDで、多くの人が見落とされてしまうことを意味する。

表4 IQ/DQ別にみた各群のASQ得点平均、およびカットオフ以上の割合

IQ/DQ 群	N	全39項目の場合				8項目削除後		
		平均 (s.d.)	カットオフ以上の割合		平均 (s.d.)	カットオフ以上の割合 ^{a)}		
			15点	13点				
70以上								
自閉症	10	21.2 (5.0)	.90	1.00	16.7 (3.4)	1.00		
自閉症以外のPDD	19	15.1 (6.1)	.42	.74	11.9 (5.6)	.63		
PDD以外	29	10.9 (6.1)	.24	.38	7.4 (4.6)	.38		
うちADHD	19	11.8 (5.5)	.21	.42	8.2 (3.8)	.42		
うちADHD以外	10	9.1 (7.1)	.30	.30	6.0 (5.8)	.30		
69以下								
自閉症	28	24.9 (8.4)	.82	.93	19.7 (7.0)	.93		
自閉症以外のPDD	7	19.4 (6.7)	.71	.86	14.7 (5.0)	.86		
PDD以外	3	9.3 (3.1)	.00	.00	6.0 (1.0)	.00		
うちADHD	2	8.0 (2.8)	.00	.00	6.0 (1.4)	.00		
うちADHD以外	1	12.0	.00	.00	6.0	.00		

^{a)}カットオフ9点の場合。

IQ/DQ水準別のカットオフの精度 上記のような見落としが知的障害の程度と関係しているかどうかを検討するために、知的障害の程度別にかットオフの精度を検討したものが、表4である。知能検査、発達検査未実施の受診者がいるため、Nの合計は対象者総数とは一致しない。また、検査の種類は区別していない。

8項目削除後のカットオフ以上の割合を見ると、IQ/DQ70以上の自閉症群で100%、69以下の自閉症群で93%、69以下の自閉症以外のPDD群で86%であり、これらの値はおおむね良好である。しかし、IQ/DQ70以上の自閉症以外のPDD群では63%にとどまっている。

このグループについてさらに詳しく検討すると、カットオフのすぐ下の7~8点を示す対象者や、1点の対象者は、ほぼすべてこのグループに含まれている。低得点者の内訳は、アスペルガー症候群2名、その他のPDDが6名であり、後者のうちの2名については「PDDの疑い」という診断になっている。これらの子どもに共通する特徴としては、16「肯定のうなずき」、19「社会的微笑み」、21「物の共有」、23「慰め」、24「社会的働きかけ」において得点を得たものがない、つまり自閉症的特徴を示したものがいない、ということであった。こうしたことから、これらのグループが示す自閉症の特徴は微妙であり、場合によっては医師でも診断を保留するほどであることがわかる。それ以外の項目や年齢については、一貫した傾向は見られなかった。

なお、項目33~39に無回答である者は自閉症群に4名いたが、いずれも合計得点が20点以上の高得点を示しており、回答項目数が少ないことによる補正は特に必要ないと考えられた。

先行研究のカットオフとの比較 Berumentら(1999)では、39点満点のうち15点がカットオフ点となっていた。そこで、比較検討のために項目を削除しない全39項目を用いて各対象者の合計得点を算出し、カットオフ点を15点として、スクリーニングの精度を検討した。その結果は表4の中央部である。

カットオフ以上の割合を見ると、IQ/DQ70以上の自閉症群で90%、69以下の自閉症群で82%、69

以下の自閉症以外の PDD 群で 71%であり、8 項目削除でカットオフ 9 点の場合よりも見落としの割合が増える。IQ/DQ70 以上の自閉症以外の PDD 群ではわずか 42%しか抽出できていない。したがって、現状のままでカットオフ点を 15 点にすることはできない。

ここでカットオフ点を 13 点に下げると、8 項目削除でカットオフ 9 点の場合とほぼ同様の精度が得られ、IQ70 以上の自閉症以外の PDD 群のみカットオフ以上の割合が 74%に改善される。このとき、感度は.855、特異度は.636、陽性反応的中度は.831、陰性反応的中度は.677 であり、いずれも 8 項目削除した場合と同じか、またはそれ以上であった。以上より、8 項目削除するよりも、全 39 項目を用いカットオフを 13 点にした方がよいと考えられる。

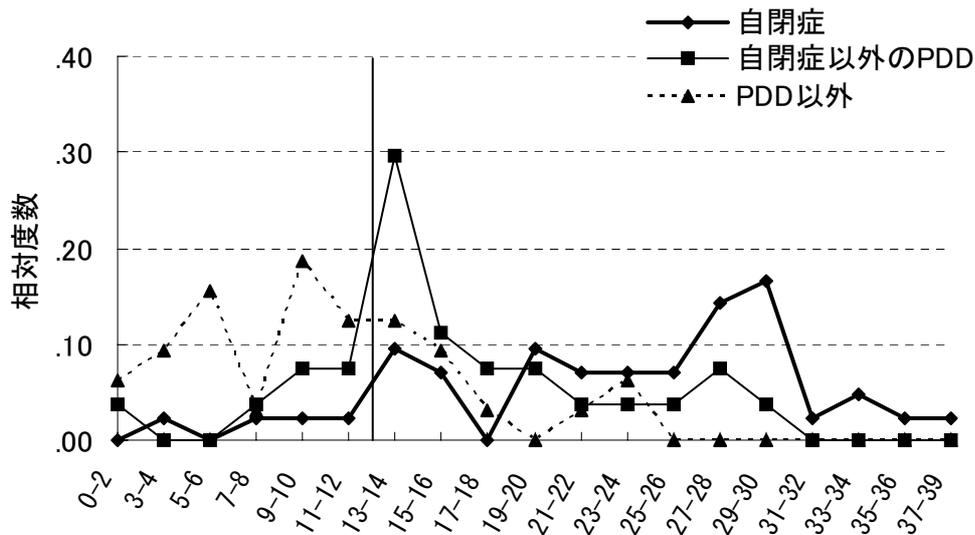


図2 ASQ得点分布 (39項目)

なお、ADHD 群については、8 項目削除した場合でも、全 39 項目でカットオフ 13 点の場合でも、カットオフ以上になる者の割合はともに 42%で変わらなかった。

全 39 項目による得点分布を図 2 に示した。11~12 点と 13~14 点の間にカットオフを示す線を描いてある。

総合考察

日本語版 ASQ は一定のスクリーニング精度を示した。当面は 39 項目のままで、カットオフ点を原版より低い 13 点に設定することにより、スクリーニングテストとしての機能を果たすことが期待できる。

ただし、Berument ら (1999) に比べて識別力のない項目が多かったことや、IQ70 以上の自閉症以外の PDD 群では 4 分の 1 がカットオフ以下になっていることから、原版と比べて精度は若干劣ると考えられる。原因としては、日本語版の質問内容の問題 (翻訳の正確さなど)、回答者の発達障害に対する知識背景などが考えられる。

一方、Berument らに比べて特異度および陽性反応的中率が低かった点については、本研究における非 PDD 群の 3 分の 2 が ADHD であり、PDD 群との境界が不明瞭な群を対象としたことによる影響が大きいと考えられる。したがって、本テストを使用する場合には、ADHD 群の 4 割がカットオフ以上に

なるという点に留意する必要がある。

質問内容に関しては、千住・林・東條（2001）で識別力がなかった項目 33「社会的おしゃべり」は、今回の研究では文章表現を修正して実施し、十分な識別力を得た。一方、今回識別力が低く、また先行研究より得点率も低かった 8「手指の常同行動」、28「他者への興味」などについては、新たに文章表現について検討する必要がある。

回答者の発達障害に対する知識背景については、先行研究のようにある程度の知識背景のある人が回答者になることの方がむしろ特殊であり、実際に ASQ が使用される場合には、むしろ初診やそれに準じる人が回答者で、知識背景も乏しい場合が多いと考えられる。このことから、今回識別力のなかった 8 項目を中心として、発達障害に詳しくない人でもそれと意思が当たることのできる表現を工夫していく必要があるだろう。

上記以外で検討すべき点としては、識別力のない 8 項目を残した方が、カットオフ付近における自閉症以外の PDD の検出力が上がるのはなぜか、という問題がある。偶然生じたことなのか、それともこれらの項目は、カットオフ付近の PDD 児が示す軽微な自閉症状であるのか、その点を今後検討する必要がある。

付記：本研究の一部は、平成13～15年度科学研究費補助金（基盤研究(B)(2)）「自閉症児・ADHD児における社会的障害の特徴と教育的支援に関する研究」の助成を受けた。

引用文献

- Berument, S. K., Rutter, M., Lord, C., Pickles, A., & Bailey, A. (1999) Autism screening questionnaire : diagnostic validity. *British Journal of Psychiatry*, **175**, 444-451.
- Charman, T., Swettenham, J., Baron-Cohen, S., Cox, A., Baird, G., & Drew, A. (1998) An experimental investigation of social-cognitive abilities in infants with autism: Clinical implications. *Infant Mental Health Journal*, **19**, 260-275.
- 大六一志・千住淳・林恵津子・東條吉邦・市川宏伸（2003）自閉症スクリーニング質問紙（ASQ）日本語版の作成。平成 14 年度科学研究費補助金基盤研究(B)(2)「自閉症児・ADHD 児における社会的障害の特徴と教育的支援に関する研究」報告書「自閉症と ADHD の子どもたちへの教育支援とアセスメント」, pp.33-38.
- 千住淳・東條吉邦（2001）日本版 ASQ（Autism Screening Questionnaire）に関する検討。日本発達心理学会第 12 回大会（鳴門教育大学）
- 千住淳・林恵津子・東條吉邦（2001）行動と社会性の評定に関する質問紙の作成。国立特殊教育総合研究所一般研究報告書「自閉性障害のある児童生徒の教育に関する研究（第 4 集）」, pp.7-12.
- 東條吉邦・寺山千代子・千住淳・紺野道子（2000）教師による自閉症児の行動評定－社会性の評定を中心に－。国立特殊教育総合研究所一般研究報告書「自閉性障害のある児童生徒の教育に関する研究（第 3 集）」, 17-32.

保護者の皆様

ASQ刊行委員会

子どもの社会性に関する調査票（6歳以上）

この度は、調査票への記入にご協力いただきありがとうございます。

私たちは、子どもたちの社会性について取り組んでまいりました。子どもたちの中には、様々な要因から、人との関わりが難しかったり、コミュニケーションがうまくとれないといった困難が生じることがあります。そのような子どもたちの状態を適切に把握し、その後の適切な判断と支援のためには、家庭や学校での日常生活の姿をふまえる必要があります。

子どもたちの社会性を中心とした日常生活の姿を、保護者の方から教えていただく事を目的として調査票を作成いたしました。より良い質問紙にするために、皆様のご協力をいただきたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先 武蔵野女子大学 大六 一志
 tel. 0424-68-8149
 e-mail hito_d@musashino-wu.ac.jp

太枠内にご記入ください

お子様の年齢	歳	カ月	お子様の性別 (該当する方に○を)	男・女
記入日	年	月	日	記入者 (お子様に対する続柄)

次のページへ

以下医師記入欄

No.	Diag.
IQ/DQ (検査名)	
備考	

以下の質問では、お子様のことについておたずねします。「はい」または「いいえ」を○で囲んでお答え下さい。

いくつかの質問項目では、類似した複数の行動を例としてあげていますが、そのうちひとつでも思い当たったら「はい」に印をつけて下さい。判断に迷われた場合でもご自身の考えでかまいませんから、すべての質問項目に必ず「はい」か「いいえ」でお答え下さい。

1. ある特定のやり方や順番、儀式的なパターンにこだわるのが、これまでにありましたか？ 自分でする場合でも、あなたに頼む場合でも構いません。 はい いいえ
.....
2. 場面にそぐわない表情をしますか？
(例： 叱っているのにしょんぼりしない。ほめているのににっこりしない。) はい いいえ
.....
3. 他人の手を道具のように、または自分の手の延長のように扱うことが、これまでにありましたか？
(例： お母さんの手で指差しをする。お父さんの手を取ってドアノブに置きドアを開けさせる。) はい いいえ
.....
4. 一般的には人があまり興味を持たないことに熱中することが、これまでにありましたか？
(例： 信号機, 排水溝, 時刻表など) はい いいえ
.....
5. 玩具の一部に集中し、本来的でない遊び方をすることが、これまでにありましたか？
(例： ミニカーのタイヤだけをくるくる回す) はい いいえ
.....
6. 興味の対象は同年代の子どもと共通であっても、極端に熱中した物が、これまでにありましたか？ (例： 電車, 恐竜など) はい いいえ
.....
7. 人の臭いや物の臭い、物の見え方や感触や音に極端な興味を持つことが、これまでにありましたか？ はい いいえ
.....
8. 手や指を、場面にそぐわない無目的なパターンで繰り返し動かすことが、これまでにありましたか？
(例： 手をヒラヒラ揺らす, 目の前で指を動かす, など) はい いいえ
.....
9. からだ全体を、場面にそぐわない無目的なパターンで繰り返し動かすことが、これまでにありましたか？
(例： その場でクルクル回る, ピョンピョン跳ねる, など) はい いいえ
.....
10. 故意に自分の体を傷つけることがありますか？
(例： 自分の手を噛む, 自分の頭を打ち付ける, など) はい いいえ
.....
11. 場面にそぐわないのに、持っていないと気が済まない特定の物がありますか？
(注： むいぐるみ, タオルケットなどは除く) はい いいえ
.....
12. 仲の良い友達はいますか？ はい いいえ
.....

次ページへつづく

以下の13～32に挙げた行動は4～5歳頃によく見られる行動です。4～5歳頃のお子さんの様子を思いだして回答してください。お誕生日やお正月など家族で過ごした出来事を思い浮かべていただくと良いかと思ます。

- | | | |
|--|----|-----|
| 13. 母親や父親(あるいは他の大人)のしぐさを、大人になったつもりで真似しましたか?
(例: お母さんになったつもりで掃除機をかける。お父さんのようなしぐさで新聞を読む。) | はい | いいえ |
| 14. 身近にある物をあなたに見せたくて、自分から指差しをしましたか? | はい | いいえ |
| 15. 自分の欲しい物を知らせるために、身振り手振りを使いましたか?
(注: 指差しや、手を引くことは除いてください) | はい | いいえ |
| 16. 「はい」の意味でうなずきましたか? | はい | いいえ |
| 17. 「いいえ」の意味で首を横に振りましたか? | はい | いいえ |
| 18. 一緒に遊ぶときやお話をするときは、必ずまっすぐにあなたの顔を見ましたか? | はい | いいえ |
| 19. よその人が微笑みかけると笑顔を返しましたか? | はい | いいえ |
| 20. あなたの注意をひきたくて、自分の好きな物を見せましたか? | はい | いいえ |
| 21. あなたに食べ物以外の物でも分けてくれましたか? | はい | いいえ |
| 22. 自分の好きな遊びにあなたを誘いましたか? | はい | いいえ |
| 23. あなたが悲しんだり痛がったりしていると慰めてくれましたか? | はい | いいえ |
| 24. 何か欲しかったり、手伝って欲しいときには、いつもきちんと顔を見て身振り手振りや言葉を使って、あなたに伝えましたか? | はい | いいえ |
| 25. 同年齢の子どもと同じくらいに、表情のレパートリーがありましたか?
(例: 得意げな表情, 心配する表情, 恨めしい表情) | はい | いいえ |
| 26. 仲間とのお遊戯に進んで参加して、やり方を真似しましたか? | はい | いいえ |
| 27. みたて遊びやごっこ遊びをしましたか? | はい | いいえ |
| 28. 知らない子でも同年齢であれば興味を示しましたか? | はい | いいえ |
| 29. 他の子どもの働きかけに積極的に応えましたか? | はい | いいえ |
| 30. 名前を呼ばずに部屋に入って話しかけたら、必ずきちんと気がついて顔を上げましたか? | はい | いいえ |
| 31. 同年齢の仲間と想像的な遊びをしましたか? お互い何の役を演じているのか分かっているようでしたか? | はい | いいえ |
| 32. 決まり事のある集団遊びにルールに従って参加しましたか?
(例: かくれんぼ, ポール遊びなど) | はい | いいえ |

次ページへつづく

おさんは現在、2～3の語を組み合わせてお話が出来ますか？ お話の出来るおさんは以下の質問にもお答え下さい。

33. 「あのね」「それでね」と言いながら親しげに話しかけてくることがありますか？
 (注: おねだりの場合は除いてください) はい いいえ

34. あなたから話しかけた時、交互にやりとりが成立する意味の通った会話になりますか？ はい いいえ

35. 妙な言い回しや、ある特定の言葉を何度も繰り返すことが、これまでにありましたか？
 (注: 他人の真似でも自分で作ったものでも構いません) はい いいえ

36. 社会的に不適切な質問や発言をすることが、ありますか？
 (例: 状況にお構いなく、個人に立ち入った失礼なことを繰り返し言う) はい いいえ

37. 相手が言うべきセリフを言うことがありますか？
 (例: 「おかえり」と言いながら帰宅する。「ありがとう」と言いながら物をあげる。) はい いいえ

38. 自分で思いついたような造語や、風変わりな遠回しな比喩表現を使うことがあります
 (例: 「蒸気」のことを「熱い雨」と言う) はい いいえ

39. 同じ内容を全く同じ言い回しで繰り返したこと、または、せがんだことがありますか？ はい いいえ

ご協力ありがとうございました

ご意見等がございましたら、こちらにご記入ください。

注1)「自閉症スクリーニング質問紙(ASQ)日本語版」の項目の一部または全部について著者に無断で使用することはご遠慮ください。使用を希望する場合には、必ず事前に著者に文書またはEメール等で了解を求めてください。

なお、使用された場合には、研究目的のために結果のデータの提供をお願いすることがあります。

注2)採点方法は、1～11および35～39については「はい」の場合に1点、それ以外の項目については「いいえ」の場合に1点とする。

保護者の皆様

ASQ刊行委員会

子どもの社会性に関する調査票（5歳以下）

この度は、調査票への記入にご協力いただきありがとうございます。

私たちは、子どもたちの社会性について取り組んでまいりました。子どもたちの中には、様々な要因から、人との関わりが難しかったり、コミュニケーションがうまくとれないといった困難が生じることがあります。そのような子どもたちの状態を適切に把握し、その後の適切な判断と支援のためには、家庭や学校での日常生活の姿をふまえる必要があります。

子どもたちの社会性を中心とした日常生活の姿を、保護者の方から教えていただく事を目的として調査票を作成いたしました。より良い質問紙にするために、皆様のご協力をいただきたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先 武蔵野女子大学 大六 一志
 tel. 0424-68-8149
 e-mail hito_d@musashino-wu.ac.jp

太枠内にご記入ください

お子様の年齢	歳	カ月	お子様の性別 (該当する方に○を)	男・女
記入日	年	月	日	記入者 (お子様に対する続柄)

次のページへ

以下医師記入欄

No.	Diag.
IQ/DQ (検査名)	
備考	

以下の質問では、お子様のことについておたずねします。「はい」または「いいえ」を○で囲んでお答え下さい。

いくつかの質問項目では、類似した複数の行動を例としてあげていますが、そのうちひとつでも思い当たったら「はい」に印をつけて下さい。判断に迷われた場合でもご自身の考えでかまいませんから、すべての質問項目に必ず「はい」か「いいえ」でお答え下さい。

- | | | |
|--|----|-----|
| 1. ある特定のやり方や順番、儀式的なパターンにこだわる場合がありますか？ 自分でする場合でも、あなたに頼む場合でも構いません。 | はい | いいえ |
| ----- | | |
| 2. 場面にそぐわない表情をしますか？
(例：叱っているのにしょんぼりしない。ほめているのににっこりしない。) | はい | いいえ |
| ----- | | |
| 3. 他人の手を道具のように、または自分の手の延長のように扱うことがありますか？
(例：お母さんの手で指差しをする。お父さんの手を取ってドアノブに置きドアを開けさせる。) | はい | いいえ |
| ----- | | |
| 4. 一般的には人があまり興味を持たないことに熱中することがありますか？
(例：信号機、排水溝、時刻表など) | はい | いいえ |
| ----- | | |
| 5. 玩具の一部分に集中し、本来的でない遊び方をすることがありますか？
(例：ミニカーのタイヤだけをくるくる回す) | はい | いいえ |
| ----- | | |
| 6. 興味の対象は同年代の子どもと共通であっても、極端に熱中している物がありますか？
(例：電車、恐竜など) | はい | いいえ |
| ----- | | |
| 7. 人の臭いや物の臭い、物の見え方や感触や音に極端な興味を持つことがありますか？ | はい | いいえ |
| ----- | | |
| 8. 手や指を、場面にそぐわない無目的なパターンで繰り返し動かすことがありますか？
(例：手をヒラヒラ揺らす、目の前で指を動かす、など) | はい | いいえ |
| ----- | | |
| 9. からだ全体を、場面にそぐわない無目的なパターンで繰り返し動かすことがありますか？
(例：その場でクルクル回る、ピョンピョン跳ねる、など) | はい | いいえ |
| ----- | | |
| 10. 故意に自分の体を傷つけることがありますか？
(例：自分の手を噛む、自分の頭を打ち付ける、など) | はい | いいえ |
| ----- | | |
| 11. 場面にそぐわないのに、持っていないと気が済まない特定の物がありますか？
(注：ぬいぐるみ、タオルケットなどは除く) | はい | いいえ |
| ----- | | |
| 12. 仲の良い友達はいますか？ | はい | いいえ |
| ----- | | |

次ページへつづく

※現在のお子様の様子についてお答えください。かつてはあったが現在は無いものについては、「いいえ」でお答えください。

-
13. 母親や父親(あるいは他の大人)のしぐさを, 大人になったつもりで真似しますか?
(例: お母さんになったつもりで掃除機をかける。お父さんのようなしぐさで新聞を読む。) はい いいえ
-
14. 身近にある物をあなたに見せたくて, 自分から指差しをしますか? はい いいえ
-
15. 自分の欲しい物を知らせるために, 身振り手振りを使いますか?
(注: 指差しや, 手を引くことは除いてください) はい いいえ
-
16. 「はい」の意味でうなずきますか? はい いいえ
-
17. 「いいえ」の意味で首を横に振りますか? はい いいえ
-
18. 一緒に遊ぶときやお話をするときは, 必ずまっすぐにあなたの顔を見ますか? はい いいえ
-
19. よその人が微笑みかけると笑顔を返しますか? はい いいえ
-
20. あなたの注意をひきたくて, 自分の好きな物を見せますか? はい いいえ
-
21. あなたに食べ物以外の物でも分けてくれますか? はい いいえ
-
22. 自分の好きな遊びにあなたを誘いますか? はい いいえ
-
23. あなたが悲しんだり痛がったりしていると慰めてくれますか? はい いいえ
-
24. 何か欲しかったり, 手伝って欲しいときには, いつもきちんと顔を見て身振り手振り
や言葉を使って, あなたに伝えますか? はい いいえ
-
25. 同年齢の子どもと同じくらいに, 表情のレパートリーがありますか?
(例: 得意げな表情, 心配する表情, 恨めしい表情) はい いいえ
-
26. 仲間とのお遊戯に進んで参加して, やり方を真似しますか? はい いいえ
-
27. みたて遊びやごっこ遊びをしますか? はい いいえ
-
28. 知らない子でも同年齢であれば興味を示しますか? はい いいえ
-
29. 他の子どもの働きかけに積極的に応えますか? はい いいえ
-
30. 名前を呼ばずに部屋に入って話しかけたら, 必ずきちんと気がついて顔を上げますか? はい いいえ
-
31. 同年齢の仲間と想像的な遊びをしましたか? お互い何の役を演じているのか分かって
いるようですか? はい いいえ
-
32. 決まり事のある集団遊びにルールに従って参加しますか?
(例: かくれんぼ, ポール遊びなど) はい いいえ
-

次ページへつづく

お子さんは、2～3の語を組み合わせてお話が出来ますか？ お話の出来るお子さんは以下の質問にもお答え下さい。

33. 「あのね」「それでね」と言いながら親しげに話しかけてくることがありますか？
 (注: おねだりの場合は除いてください) はい いいえ

34. あなたから話しかけた時、交互にやりとりが成立する意味の通った会話になりますか？ はい いいえ

35. 妙な言い回しや、ある特定の言葉を何度も繰り返すことが、これまでにありましたか？
 (注: 他人の真似でも自分で作ったものでも構いません) はい いいえ

36. 社会的に不適切な質問や発言をすることがありますか？
 (例: 状況にお構いなく、個人に立ち入った失礼なことを繰り返し言う) はい いいえ

37. 相手が言うべきセリフを言うことがありますか？
 (例: 「おかえり」と言いながら帰宅する。「ありがとう」と言いながら物をあげる。) はい いいえ

38. 自分で思いついたような造語や、風変わりな遠回しな比喻表現を使うことがあります
 (例: 「蒸気」のことを「熱い雨」と言う) はい いいえ

39. 同じ内容を全く同じ言い回しで繰り返すこと、または、せがむことがありますか？ はい いいえ

※現在のお子様の様子についてお答えください。かつてはあったが現在は無いものについては、「いいえ」でお答えください。(ただし 35 をのぞく)

ご協力ありがとうございました

ご意見等がございましたら、こちらにご記入ください。

注1)「自閉症スクリーニング質問紙(ASQ)日本語版」の項目の一部または全部について著者に無断で使用することとはご遠慮ください。使用を希望する場合には、必ず事前に著者に文書またはEメール等で了解を求めてください。

なお、使用された場合には、研究目的のために結果のデータの提供をお願いすることがあります。

注2)採点方法は、1～11および35～39については「はい」の場合に1点、それ以外の項目については「いいえ」の場合に1点とする。